

総合地球環境学研究所(地球研)とは？

2001年4月 地球環境問題への新しいアプローチを目指して、
文部科学省・大学共同利用機関として創設

自然に挑み支配しようとしてきた近代文明によって地球規模のものになった環境問題。その根源は、強大な手段を手にしたことによって、過剰な豊かさを飽くなく求める人間活動にある。

- ✓ 完全プロジェクト方式
 - ・ 外部委員を評価委員会による審査システム
- ✓ 文理融合・統合型研究
- ✓ 国内外の大学、研究機関との国際共同研究

地球環境問題を解決へ向けて 地球研の理念

キーワード

人間－自然相互作用環

＝地球環境問題において解明すべき実態

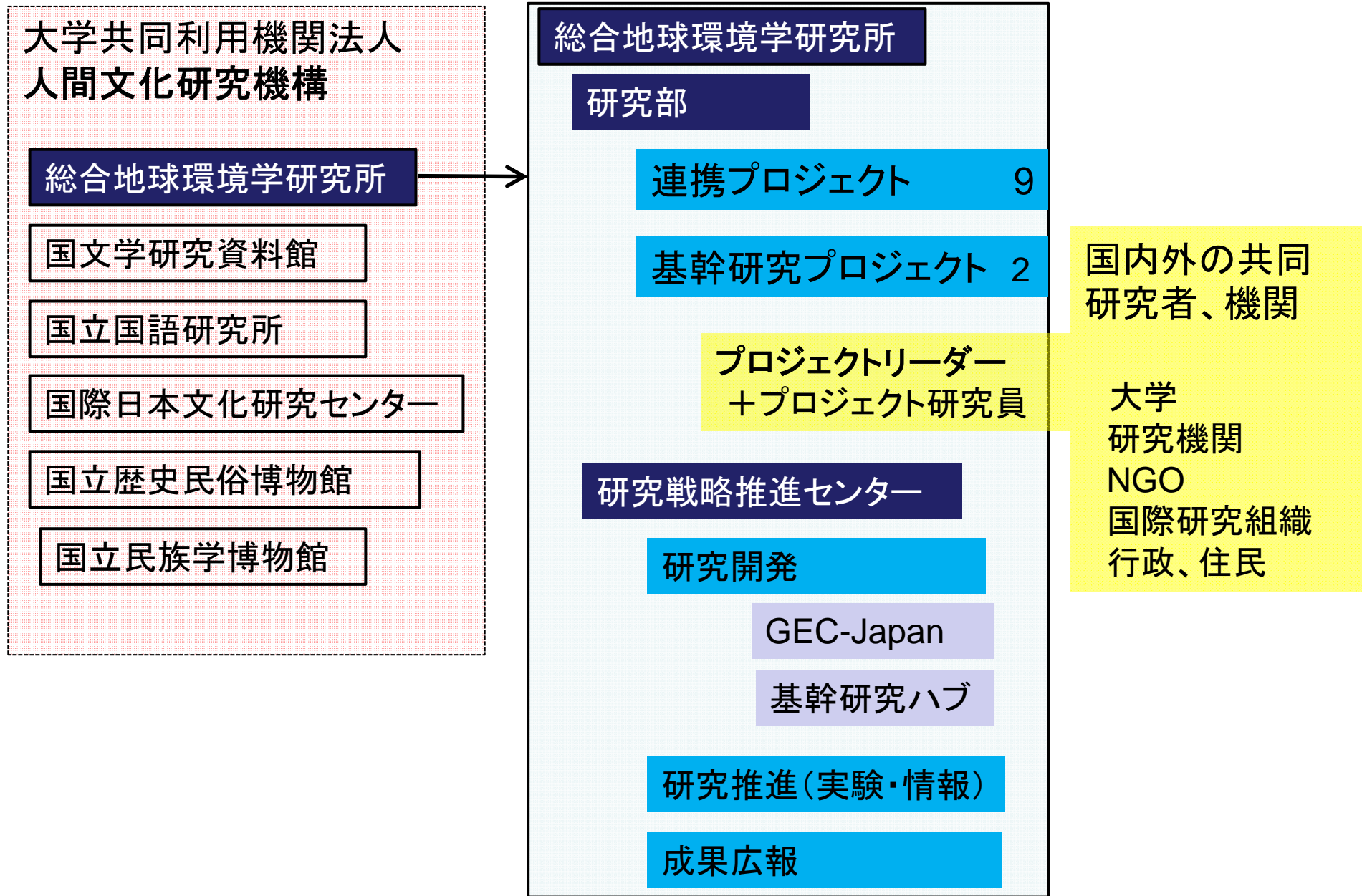
人間(自然界の一部である人間圏システム)が自然(周囲世界)に働きかける作用と、その反作用の連鎖

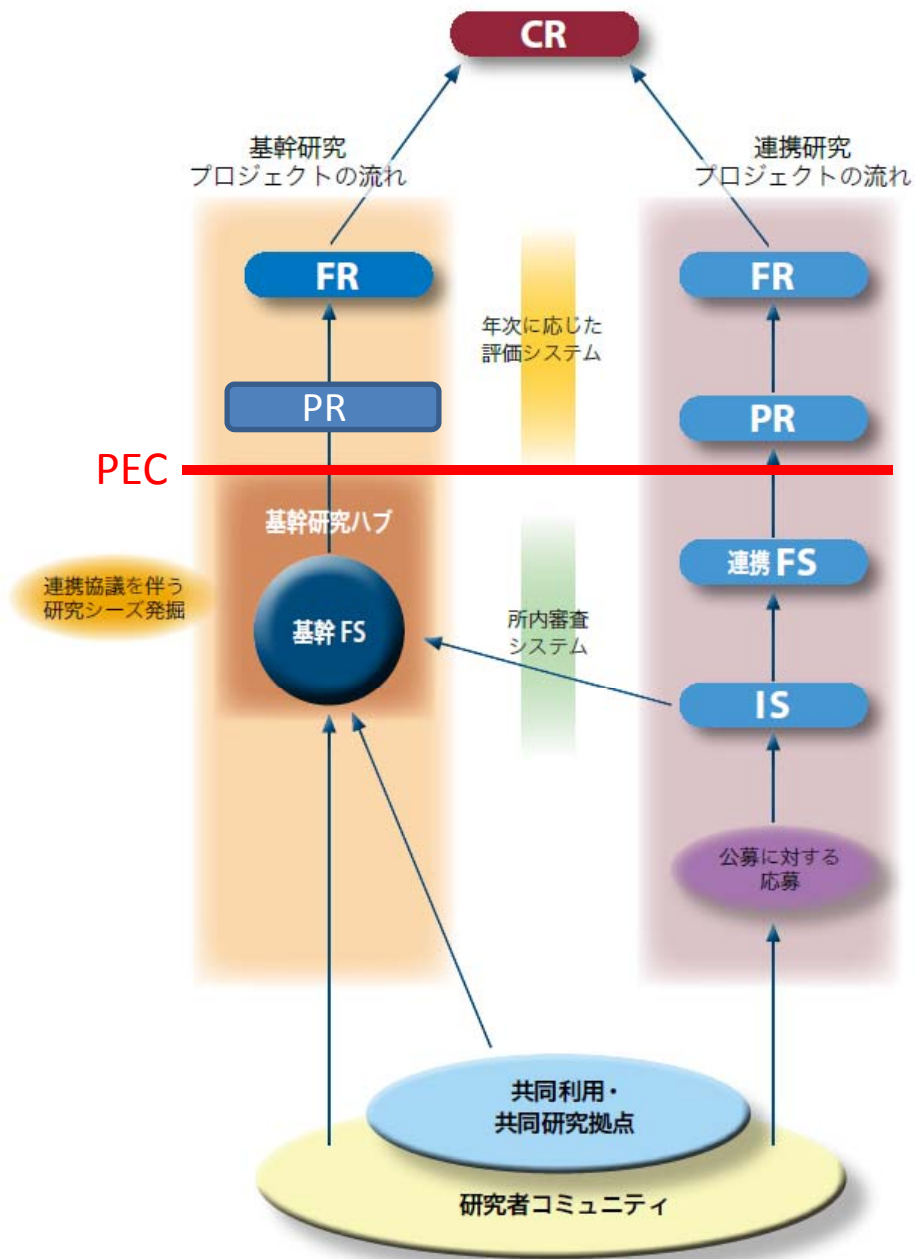
未来可能性

＝地球環境問題において追求すべき目標

現状維持・現状の是認のニュアンスが強い「持続可能性」ではなく、究極目的として人間のwell-beingの向上を見定めて、その実現手段を考える

地球研の組織





研究プロジェクトの立ち上げ方と進め方

CR: Completed Research……終了プロジェクト。研究の成果や社会的な貢献について、本研究終了の2年後(CR2)に所内審査委員会(PRT)による事後評価を受ける

FR: Full Research……本研究。3～5年程度の計画で進められる研究で、評価は研究プロジェクト評価委員会(PEC)が行う。実施2年目、終了1年前、終了年にそれぞれ評価を受ける

PR: Pre-Research……プレリサーチ。FRへの移行準備として1年程度進められる研究

FS: Feasibility Study……予備研究。6ヶ月ないし1年程度。所内での公開ヒアリングおよび所内審査委員会(PRT)の審査を受ける。その後、研究プロジェクト評価委員会(PEC)による審査を受け、運営会議で審議の上研究プロジェクトに移行する

IS: Incubation Study……インキュベーション研究。新たな研究シーズ発掘のため、地球研が公募した研究。所内での公開ヒアリングおよび所内審査委員会(PRT)で採択、連絡調整会議で決定される。6ヶ月ないし1年程度。FSへの移行についてもPRTの審査、連絡調整会議で決定される

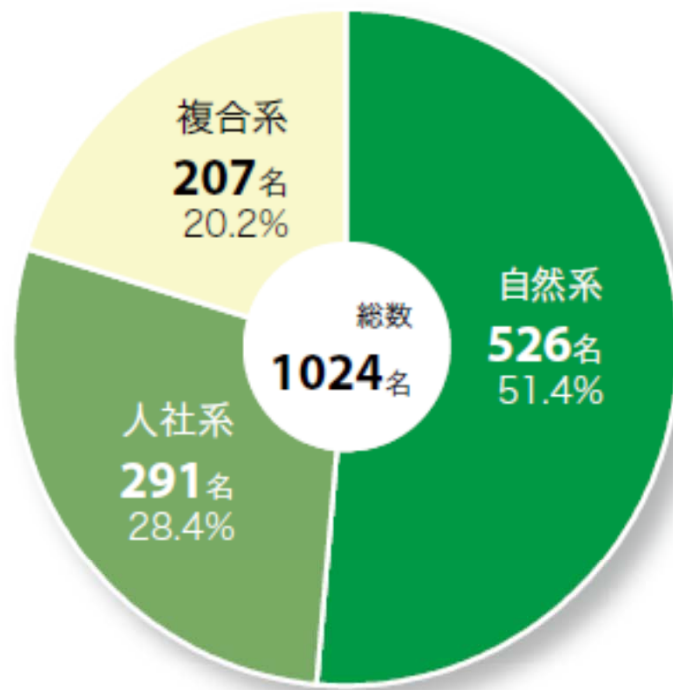
■ **運営会議**
所外学識経験者および所内の研究教育職員(15名以内)

■ **研究プロジェクト評価委員会(PEC)**
所外の国内外の研究者等(15名程度)

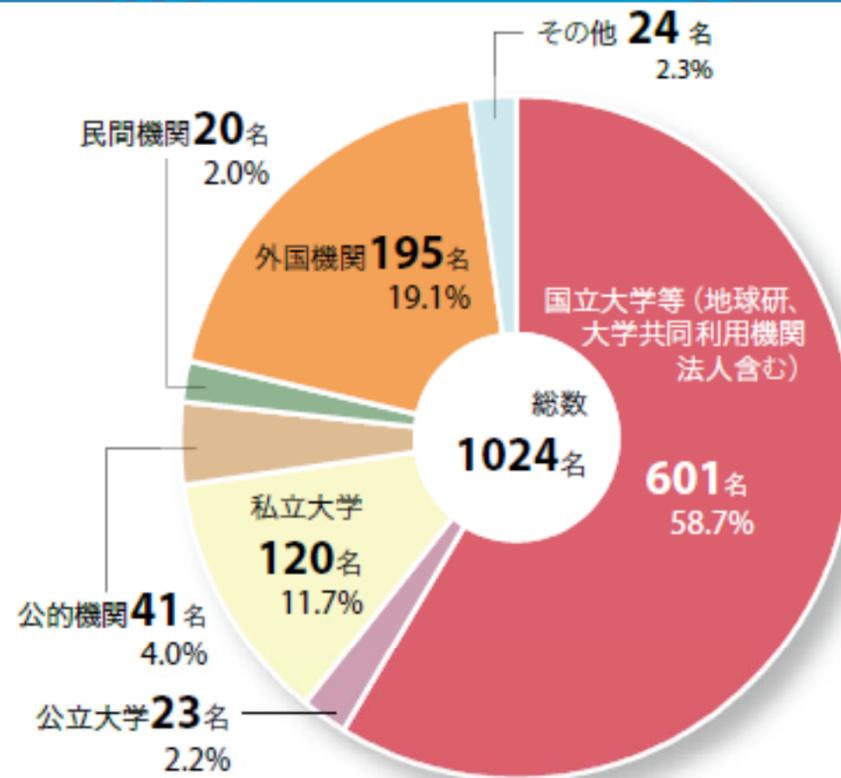
■ **連絡調整会議**
所長、副所長、プログラム主幹、研究推進戦略センター長、管理部長

■ **所内審査委員会(PRT)**
所長、副所長、プログラム主幹、研究教育職員のうち所長が指名した者

共同研究員の構成



研究分野構成比率



所属機関構成比率

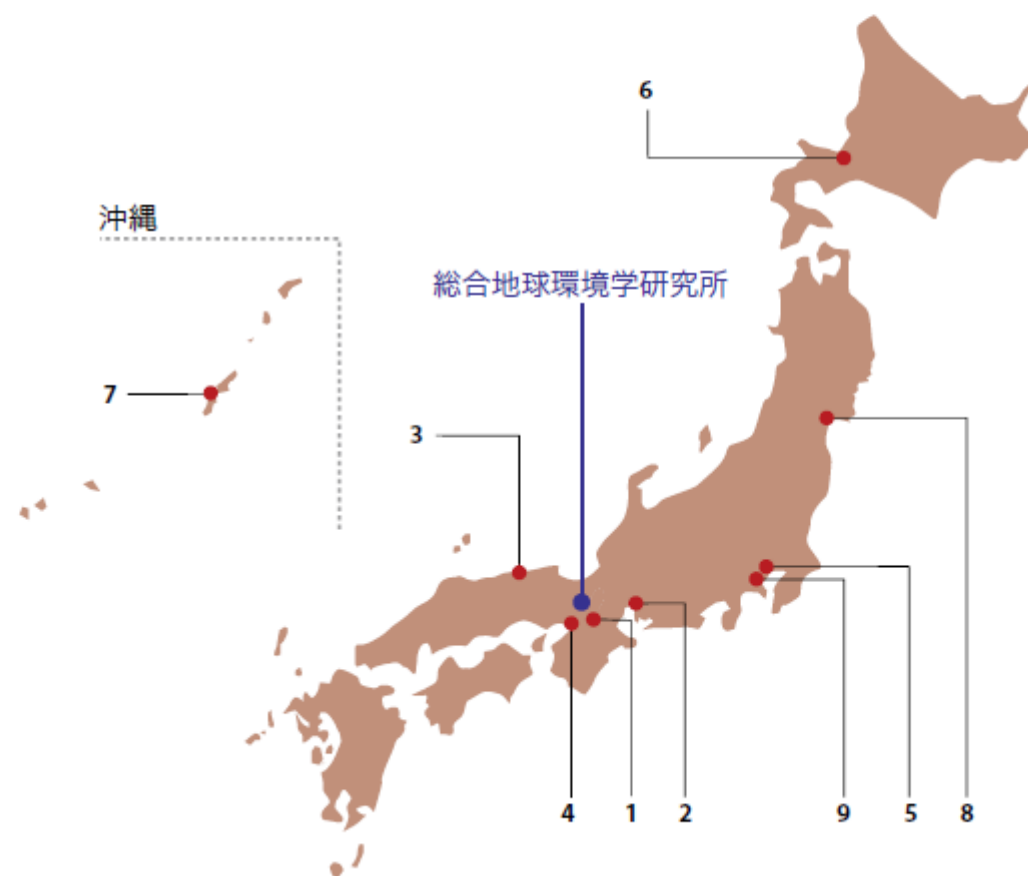
(2012年3月31日現在)

● 国内の連携研究機関

地球研では、以下に示す全国9つの研究機関などと人事交流をともなう連携を図って研究を進めてきました。第Ⅱ期中期目標・中期計画期間においては、より多くの大学や研究機関と積極的に連携を深めていきます。これら9つの研究機関以外に2009年度には名古屋大学大学院環境学研究科と連携大学院に関する協定を結び、2010年度には九州大学東アジア環境研究機構と学術交流に関する包括的な協定書を取り交わしました。

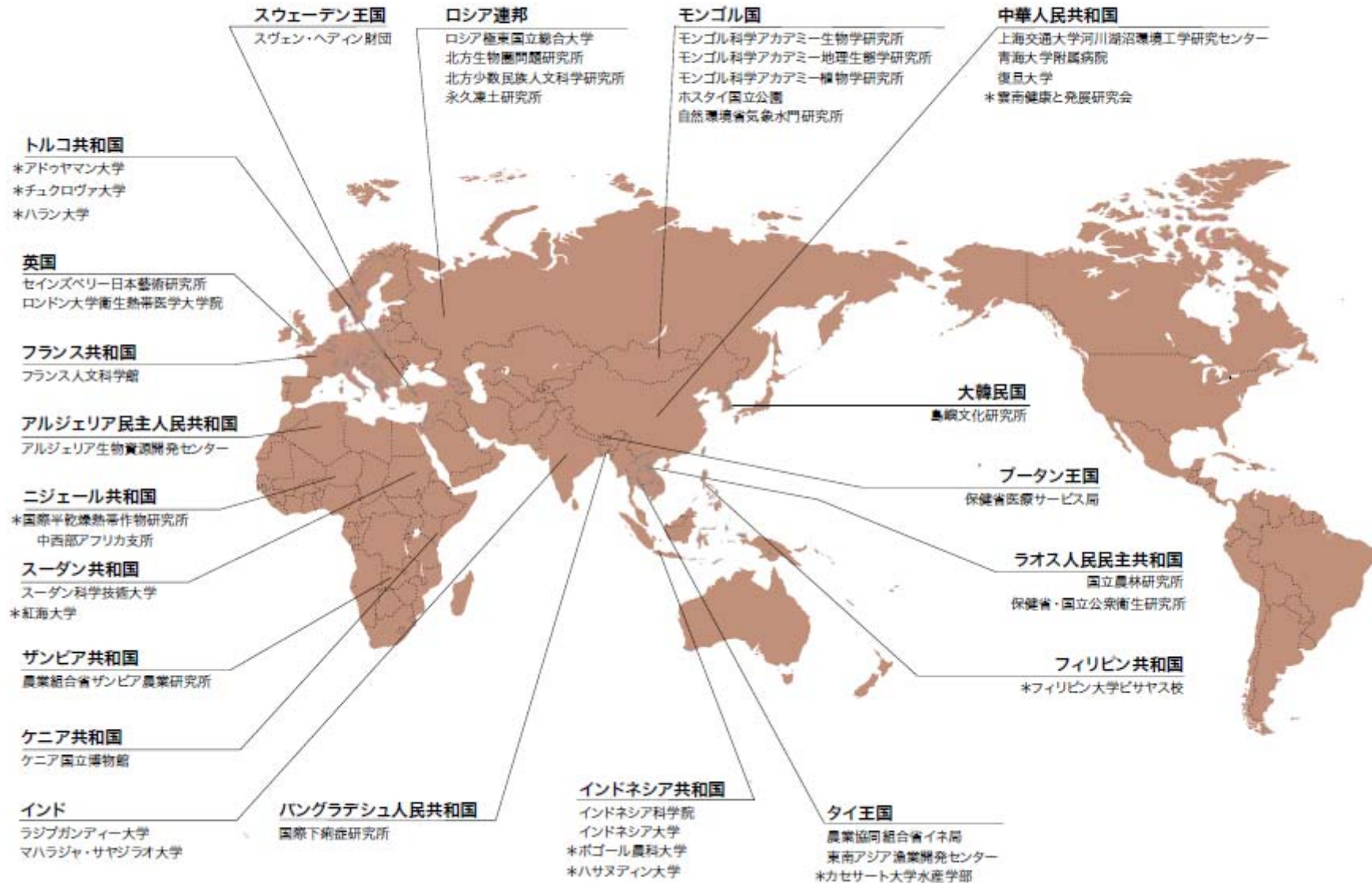
連携研究機関

1. 京大大学生態学研究センター
2. 名古屋大学地球水循環研究センター
3. 鳥取大学乾燥地研究センター
4. 国立民族学博物館
5. 東京大学生産技術研究所
6. 北海道大学低温科学研究所
7. 琉球大学熱帯生物圏研究センター
8. 東北大学大学院理学研究科
9. 横浜国立大学大学院環境情報研究院



覚書および研究協力協定の締結 (2012年4月1日現在)

*は2011年度に覚書を締結した研究機関



水に関わる主な地球研プロジェクト

2006年度 終了

乾燥地域の農業生産システムに及ぼす地球温暖化の影響
琵琶湖—淀川水系における流域管理モデルの構築
水資源変動負荷に対するオアシス地域の適応力評価とその歴史的変遷
地球規模の水循環変動ならびに世界の水問題の実態と将来展望

渡邊紹裕
谷内茂雄
中尾正義
鼎信次郎

2007年度 終了

近年の黄河の急激な水循環変化とその意味するもの

福鳶義宏

2009年度 終了

北東アジアの人間活動が北太平洋の生物生産に与える影響評価

白岩孝行

2010年度 終了

都市の地下環境に残る人間活動の影響

谷口真人

2011年度 終了

民族／国家の交錯と生業変化を軸とした環境史の解明—中央ユーラシア半乾燥域の変遷

窪田順平

現在進行中のプロジェクト

温暖化するシベリアの自然と人—水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応

檜山哲哉

統合的水資源管理のための「水土の知」を設える

渡邊紹裕

地球研・研究スタッフ数の推移

